

教職実践演習（中・高）

Practical Seminar for Teaching Profession (Junior and SeniorHigh School)

担当複数

担当教員：今井 文俊、戸川 点、早川 信一、三木 健詞

科目ナンバリング：UTL-4-321-04



■授業の目的及び到達目標

本授業の目的は、教職課程の総仕上げとして、これまでの学修を通じて習得してきた教師として必要な資質能力を確認し、教師としての実践的指導力の基礎を身につけることを目的とする。教師として求められる使命感や責任感を持ち、対人関係能力、生徒理解力、教科指導力などの基礎を身に付けて教壇に立てるようにすることが到達目標である。

■授業計画

- 1 教職に求められる資質能力と自己評価[グループ討議]
授業目的や授業計画を確認するとともに、履修カルテを活用し、科目の意義を理解する。そのうえで、教職での学びを振り返り、教師の資質能力について自己の課題認識をもつ。
- 2 学校組織と学級（HR）経営[グループ討議]
学校組織の機能を理解し、学級（HR）経営に求められる担任の在り方について考察する。
- 3 保護者や地域との関わり方[ロールプレイング]
担任として、保護者や地域とどう関わるかについて、事例を通して考察する。
- 4 いじめ問題と生徒指導[場面指導・ロールプレイング]
生徒指導上の今日的課題を理解し、いじめ問題への対応について事例を通して考察する。
- 5 キャリア教育・教育相談[場面指導]
キャリア教育・教育相談の意義について、事例を通して考察する。
- 6 キャリアカウンセリングの実際[場面指導・ロールプレイング]
カウンセリングの手法を用いた指導の在り方についてロールプレイングを通して考察する。
- 7 学校訪問・授業参観[授業参観・現場教師との意見交換]
小中高等学校を訪問して各教科や道徳の時間を参観し、現場教師の指導観や方法を伺う。
- 8 学校訪問・授業参観の結果報告[グループ討議]
各グループで訪問で学んだ成果を整理して発表し、各自が指導上の課題を確認する。
- 9 教科等の指導力①[模擬授業・グループ討議]
代表者がICT機器を活用した模擬授業を行い、学校訪問で整理した課題を踏まえて相互評価し、「よりよい授業」について考察する。
- 10 教科等の指導力②[模擬授業・グループ討議]
代表者が前回と異なる教科等で模擬授業を行い、学校訪問で整理した課題を踏まえて相互評価し、「よりよい授業」について考察する。
- 11 教師の使命と資質能力[グループ討議]
現場教師の日々の指導経験などの実践（記録）などを通じて、教師の使命と資質能力について省察する。
- 12 教職課程の学びをどう活かすか[発表]
これまでの学修を振り返り、各自が得た成果と今後への生かし方をまとめ、発表する。
- 13 学修のまとめ
履修カルテを踏まえて学修のまとめとして発表、あるいは試験を行い、これに対してフィードバックとしての解説・コメントを加える。

■授業の方法

実際に教壇に立つことを前提に、事例研究、ロールプレイングやグループ討論・発表などの演習を中心にすすめる。最後には、各自が総括して発表、あるいは試験をおこない、授業学生が相互評価する機会を設定する。

■予習・復習

予習：教育実習をはじめとするこれまでの学びを毎時間の授業テーマに沿って振り返り、まとめる。

復習：授業での実践的演習をもとに、各自の教師への意欲・使命感の深まりや、指導力の基礎の定着について省察し、まとめる。

■成績評価の方法（成績の評定方法、授業態度、レポート等の扱い）

授業での取り組みの状況を50%、試験あるいは発表などを50%として評価する。試験あるいは発表などについては、事後にフィードバックとして解説やコメントを行う。

■教科書・参考書

教科書：本学担当教員が作成したワークシートを含めたプリントをテキストとして使用する。

参考書・参考資料等：中学校および高等学校「学習指導要領」、「同解説」（文部科学省）

■関連する科目

各教科教育法、教育実習Ⅲ、教育実習事前・事後指導 の修得（教育実習、事後指導については履修）が前提となる。

■当該科目の実務経験（該当する場合のみ記載）

担当教員、いずれも公立高等学校の教員として学習指導や生徒指導、教育実習学生の指導にも当たった実績を持ち、三木、早川、戸川は管理職として学校経営にも携わった。こうした実績を当該科目での指導に活かしていく。